令和5年度　国語科・算数科の取組

○令和５年度の市学力学習状況調査の結果

学力 学年	認知能力	
	国語	算数
１年生	△聞き取り・話を基に考える △読点の付け方 △句点の付け方 △助詞の使い方 △話を聞いてよい質問をする △日記を書く・適切な語の記述 △説明文を読む・要旨の読み取り △適切に話す △紹介する・話すとよいこと	△数の大小比較 △ものの位置 △後ろから３台目・後ろから３台 △０の意味の理解 △減法を使う場面 △６＋３の式の場面 △加法の適用・答え △積み木の特徴 △長さ・めもり数での比較 △かさ・任意単位による比較 △時刻の読み取り・１２時半 △場面に合う時刻・６時半 △整理 △ひき算カード
２年生	△聞き取り △漢字の書き △片仮名 △物語文を読む △観察文を書く・整理して書く	△時計・時刻を求める △長さ △かさ △グラフの読み取り △３位数の構成 △数の相対的な大きさ △数の大小比較 △減法の適用・答え △かけ算の場面 △三角形を見つける △四角形を見つける △長方形を作る点 △正方形を作る △直角三角形を見つける △カード
３年生	○ローマ字・病院 ○ローマ字・切手 △聞き取り・詳細の聞き取り △漢字の読み・童話 △手紙を書く・あて名の書き方 △説明文を読む・要点の読み取り △漢字の書き・麦茶 △物語文を読む・詳細の読み取り △物語文を読む・語の理解 △物語文を読む・感想の共有 △報告文を書く・目的に合った資料 △報告文を書く・比較表にまとめる △考えを記述・指定の分量で書く △考えを記述・必要な語を使い書く △考えを記述・表から適切に引用	○数の相対的な大きさ △円の直径の説明 △乗法に関して成り立つ性質 △答えが最大となる乗法の筆算 △単位間の関係・m と km △長さの単位・m △重さの単位・g △長さ・適切な計器 △はかりの読み取り △必要な野菜の重さ △除法・あまりの解釈 △除法・あまりの解釈の説明

※○･･･得点率全国比より上回っている。△･･･得点率全国比より下回っている。

○令和５年度の県学力学習状況調査の結果

学力 学年	認知能力		非認知能力	備考
	国語	算数		
４年生	○文章の大体をつかむ。 ○漢字の読み書き △表現力 （書く・話す聞く）	○図形の構成 △データの読み取り △四則計算	○プランニング方略 ○作業方略 △やりぬく力	各学年、部分的に学力の伸びを確認することはできるが、全体的に学力は低い。 学年共通して文章の読み取りに課題がある。
５年生	○文の構成、文法 △読解力 △接続後、指示語	○四則計算 △立体 △数直線や図、表、グラフの読み取り	○学習意欲 ○作業方略 △柔軟的方略	
６年生	△文章構成の把握 △文章の大体をつかむ。 △重要な語句の抜き出し。	○計算のきまり △密度 △割合	○作業方略 △認知的方略	

国語科

【国語科における児童の実態】

・漢字の定着率の個人差が大きい。おおよそ定着している児童も文章中での活用に課題がある。
・語彙が少なく、新出語句を調べたり活用しようとしたりする意欲が低い。
・作文や感想文への苦手意識がある。

【指導の重点】
○言語活動を充実し、言語活動を通して指導事項を指導する単元計画にする。
○学習の系統性を明らかにし、学年に応じた指導と評価の一体化を徹底する

具体的な取組	評価
○読書活動の一層の充実を図る。 ・業前１５分間の朝読書の確実な実施。 ・国語教材との関連図書を紹介、奨励する。 ・図書相談員と連携し、低学年を中心に読み聞かせを継続して行う。	○業前の１５分間朝読書を中心に、読書活動の充実を図ることができた。 ○児童によって進度に差が出る学習の際に、早く課題が終わった児童には読書に取り組ませることができた。
○スピーチの発達段階に応じた指導を行う。 （スピーチの内容や原稿の工夫）	○朝の会を活用し、１分間スピーチの取り組むことができた。
○書くことについて段階的、継続的な指導を行う。 ・書く意欲をもたせる題材を設定する。 ・書くことを習慣化するため、継続的に日記等に取り組ませる。 ・視写をすることで原稿用紙の使い方、表記の仕方を学ばせる。	○「書くこと」の単元を中心に、書いたものをクラスクラウドで共有・コメントを付け合う取り組みを行った。これにより、クラスのみんなに読まれることを意識させ、意欲をもたせることができた。
○漢字テストを活用する。 ・正答率が低い児童へは、繰り返し習熟させ、漢字の確実な定着を図る。	○漢字テストについて、学期に１０回程度の１０問テストと２回の５０問テストを活用することができた。
○国語辞典、漢字辞典を常用する。	○国語辞典、漢字辞典を活用することができた。

算数科

【算数科における児童の実態】

・かけ算九九が確実に習得できていない児童が見られ、計算力の個人差が大きい。
・全体的に図形について、苦手意識をもつ児童が多い。
・既習の学習内容から課題を解決しようとする意欲はある。
・自分の考えを友達に伝えることに苦手意識をもつ児童が多い。

【指導の重点】
○児童の実態に即した指導と評価の改善・充実を図り、個別支援に力を注ぐ。
○数学的活動の充実と、算数を学ぶことの楽しさや意義を実感できる学習を展開する。

具体的な取組	評価
○低・中学年はＴＴ、高学年はＴＴと少人数指導を導入し、学年の実態や単元に応じて、より効果的な形態で学習に取り組む。	○低・中学年はＴＴ、高学年は少人数指導を導入し、学年の実態や単元に応じて、より効果的な形態で学習に取り組んだ。
○デジタル教科書やGIGA端末等、ＩＣＴを効果的・積極的に活用する。	○デジタル教科書、エアドロップ、クラスクラウドなどのICTを積極的に活用した。
○多様な考え方や表現に表れる数理的な処理のよさを味わうことができるように、主体的な問題解決学習を重視する。	○問題解決の場面を重視し、自力解決の時間と自分の考えを伝える時間を設定した。
○言語活動の充実を図り、考えを発表したり、友達の考えを聞いて質問したりするなど対話的な学びが深められるようにする。	○授業の中で、ペアや班での伝え合いを取り入れ、考えがより深まるように、対話を大切にした授業を行った。
○基礎的基本的な学習内容の定着プリントや学研ニューコース、eライブラリアドバンスを活用する。	○家庭学習などを通して、学研ニューコースや学習内容の定着プリントに取り組んだ。
○業前の計算力向上の時間「ぐんぐんタイム」を設定する。 ・四則をはじめとした基礎的な計算技能の定着を図る。 ・計算の速さや正確性を高め、基礎的な計算力を高める。	○週１回の「ぐんぐんタイム」でテストの平均点の低かった問題に取り組み、基礎的な計算技能の定着を図った。 ○補充が必要な児童はスマート教員と協力して休み時間などに補習を行った。